

## 令和2年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

### 自己点検報告書

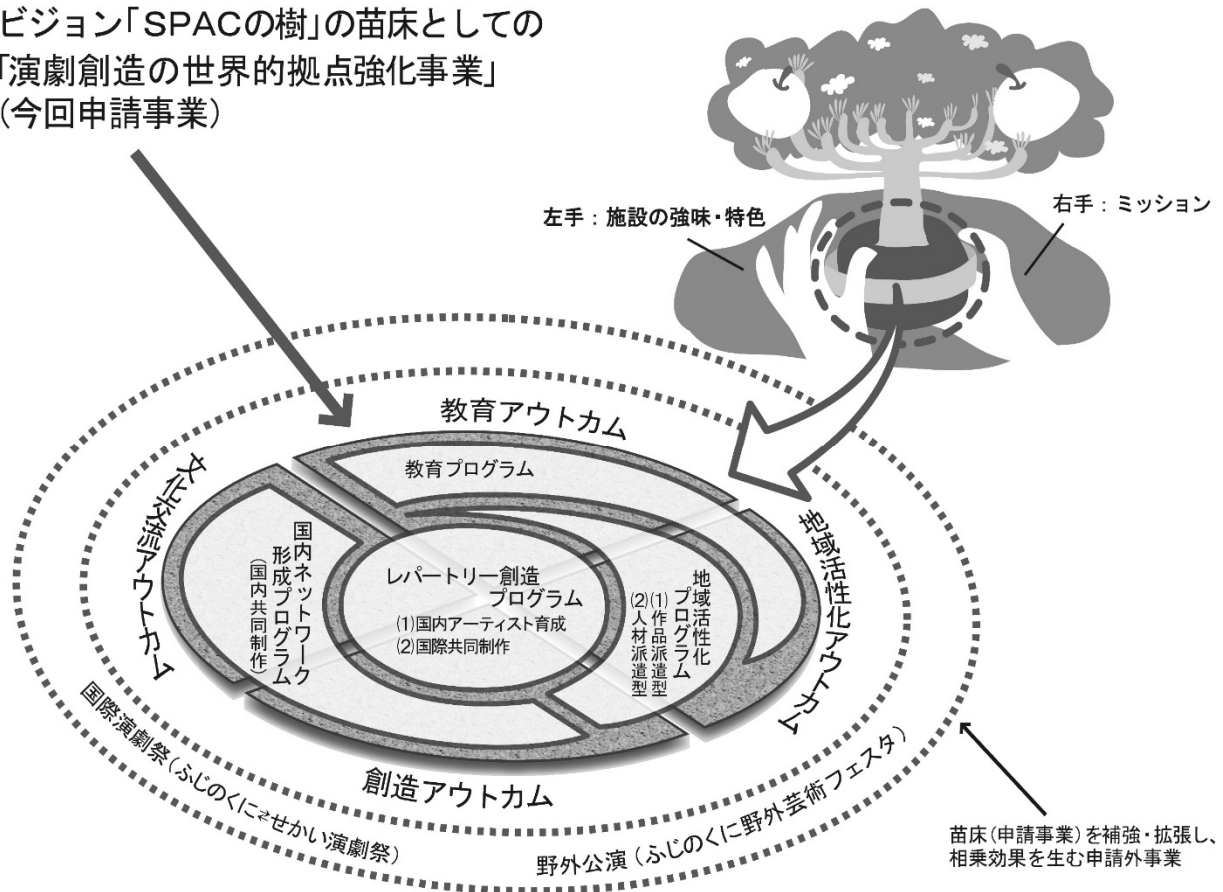
団 体 名	公益財団法人静岡県舞台芸術センター	
施 設 名	静岡県舞台芸術センター (SPAC)	
助 成 対 象 活 動 名	演劇創造の世界的拠点強化事業	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	56,447	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

ビジョン「SPACの樹」の苗床としての  
「演劇創造の世界的拠点強化事業」  
(今回申請事業)



この全体図（概念図）は、様式 1-1-2 [劇場・音楽堂等のビジョン] を前提としており、今回申請する「演劇創造の世界的拠点強化事業」が実施される 5 年間で、上記「ビジョン」で示した「SPAC の樹」（=15 年後の SPAC のイメージ）の「苗床」と位置づけている。

その「苗床」の構造としての「本事業のアウトカム」は、【創造アウトカム】【文化交流アウトカム】【教育アウトカム】【地域活性化アウトカム】の 4 つで構成されており、各アウトカムは、それぞれ様式 1-1-1 で示した [ミッションの 4 細目] に対応するものである。（各アウトカムの内容については様式 1-2-4- (2) 参照）

また、各アウトカムを発揮する個別事業（様式 1-3-①個表参照）は、「レパートリー創造プログラム」「国内ネットワーク形成プログラム」「教育プログラム」「地域活性化プログラム」に分類される。これらの各事業分類はそれぞれ複数のアウトカムを発揮するため、本図では、各事業分類をそれぞれが発揮する複数のアウトカムをまたぐ形で配置している。

なお、申請外事業の国際演劇祭（ふじのくににせかい演劇祭）および野外公演（ふじのくに野外芸術フェスタ）も、今回申請事業と連動し相乗効果を発揮するため、それぞれ、今回の申請における 4 アウトカムの外縁の位置に配置した。

## (2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レパトリー創造プログラム(1) 国内の優れたアーティストとの作品創造『病は気から』『ハムレット』	令和3年1月14日(木) ～3月11日(木)	『病は気から』演出：ノゾエ征爾 『ハムレット』演出：宮城聡 出演：SPAC	目標値	7,300
		静岡芸術劇場		実績値	6,390※
2	レパトリー創造プログラム(2) 国際共同制作①『妖怪の国と太郎』	令和2年10月1日(木) ～12月20日(日)	演出：ジャン・ランベール＝ヴィルド、 ロレンゾ・マラゲラ 出演：SPAC	目標値	10,085
		静岡市民文化会館		実績値	10,613※
3	レパトリー創造プログラム(2) 国際共同制作②『House of Us - Hamlet/Sometimes I feel so lonely even my shadow disappears』	令和2年9月19日(土) ～22日(火・祝)※	新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度に延期した。	目標値	360
		静岡県舞台芸術公園		実績値	—※
4	レパトリー創造プログラム(2) 国際共同制作③『みつばち共和国』	令和2年10月17日(土) ～26日(日)	作・演出：セリーヌ・シェフェール 出演：SPAC	目標値	400
		静岡県舞台芸術公園 屋内ホール「楯円堂」		実績値	254※
5	国内ネットワーク形成プログラム(国内共同制作) 静岡県文化プログラム SPAC『忠臣蔵2020』	令和2年8月16日(日) ※	新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度に延期した。	目標値	1,300
		グランシップ 大ホール		実績値	—※
6	教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS-PLUS＝スパカンファンプラス	令和2年8月、令和3年1～3月※	振付：メルラン・ニヤカム 振付アシスタント：太田垣悠 参加：静岡県内の中高生と55歳以上の方	目標値	200
		オンラインにて実施		実績値	31※
7	教育プログラム(2) SPACシアタースクール	令和2年8月9日(日) ～23日(日)※	指導：中野真希 指導アシスタント：SPAC 参加：静岡県内の中学2年～高校2年	目標値	参加者 40、入場者 500
		オンラインにて実施		実績値	参加者 14、入場者 —※
8	教育プログラム(3) 中学高校演劇支援事業～SPAC演劇奇跡のレッスン～	令和3年2月～令和3年3月※	「SPACプレゼンツ 演劇出前塾」 「動画で開講！SPAC1日演劇学校」 講師：SPAC	目標値	A150、 B28、C56
		静岡県内5校 およびオンライン実施 およびオンライン実施		実績値	A48、 B139、C— ※
9	教育プログラム(4) SPACこども大会	令和3年3月20日(土)、 21日(日)	出演：静岡県内在住の小学生 司会・チューター：SPAC	目標値	参加者30 組、入場者 245
		静岡芸術劇場		実績値	参加者36 組63名、 入場者 166※

番	事業名	主な実施日程	概要	入場者・参加者数	
10	地域活性化プログラム (1) 作品派遣型アウト リーチ事業	令和2年8月～令和3年3 月※	「SPAC 出張朗読公演・出張劇場」 「SPAC おはなし劇場」 出演: SPAC	目標値	A560、 B1, 625
		静岡県内 25 会場		実績値	A651、 B961※
11	地域活性化プログラム (2) 人材派遣型アウト リーチ事業①「放課後えん げき教室」「リーディン グ・カフェ」「出張講座・ ワークショップ・人材派 遣」	令和2年8月～令和3年2 月※	「放課後えんげき教室」 「オンライン・リーディング・カフェ」 「出張講座・ワークショップ・人材派遣」	目標値	A600、 B165、 C1, 800
		静岡県内 21 会場・団体 (オンライン開催を含 む)		実績値	A247、 B26、 C2, 397※
12	地域活性化プログラム (2) 人材派遣型アウト リーチ事業②「みんなで育 てよう！ダンスの種」	令和2年8月19日(水)、 12月4日(水)	「みんなで育てよう！ダンスの種プロジ ェクト」	目標値	450
		長田体育館、賤機都市山 村交流センター		実績値	41

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

SPACは、「世界をリードする創造活動によって、日本文化の国際的プレゼンスを高める」というミッションに向けて、「演劇創造の世界的拠点強化事業」を進めることができた。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、俳優、技術スタッフ、制作スタッフ等からなる【専門家】、劇場や稽古場等の【専用施設】、20年以上にわたり蓄積してきた【国内外の人的ネットワーク】、静岡県からの補助金や文化庁からの助成金等の【財源】を活用し、単に事業を中止するのではなく、臨機応変に対応しながら活動を継続させた。結果として、予定していた12の事業のうち、2つの事業を令和3年度に延期したが、残りの10の事業は、内容を変更しつつ実施した。

レパートリー創造プログラムでは、4つの作品を創造・上演した。SPACでは、感染症対策のためのガイドラインを独自に設け、俳優・スタッフと観客、観客同士はもちろんのこと、俳優・スタッフ同士の間にも感染を引き起こさないために、舞台上の俳優もマスクを着用するなど厳しいルールを課したが、アーティストとスタッフが協議を重ねることで、ガイドラインによる(制限)を、新しい表現を生み出す(創造性)へと転換させることができた。また、海外のアーティストと稽古場をオンラインでつなぎ、国際共同制作も実現させた。

教育プログラムにおいてもオンラインツールを取り入れるなどして事業を行い、海外の振付家によるダンスワークショップ、SPACの俳優による演劇ワークショップ、高校演劇部へのレクチャービデオの提供、小学生が得意なことを舞台上で表現する発表会など、小学生～高校生までの若い人たちに演劇に触れる機会を提供した。

地域活性化プログラムでは、0歳児から楽しめる作品や地域の文化団体とのコラボレーションによる作品の上演、ワークショップ等を静岡県内のさまざまな場所で行ったほか、コロナ禍で影響を受けた商店等との協働により、地域の振興・活性化を図ることもできた。

こうした活動による成果は、①世界レベルの演劇レパートリーの【創造】、②アーティスト同士のネットワークによる【文化交流】、③子どもたちの創造性・人間性を高める【教育】、④地域のブランド力を高める【地域活性化】のアウトカムの実現を可能にした。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

本事業の根幹をなすレパートリー創造プログラムでは、シェイクスピア、モリエールの古典的名作から現代の作品までをとりあげることによって、演劇史を俯瞰でき、演劇鑑賞が一層楽しくなってゆくようなラインナップを提供。かねてより要望の多かった出張公演を実施することで静岡県内12会場で上演を行い、SPACの専用劇場である静岡芸術劇場まで来ることが困難な人々にも演劇を届けることができた。週末の一般公演に加え、平日に県内中高生を招待する鑑賞事業を実施することで約1万5千人の中高生が観劇し、演劇の魅力を広く県民に示し、観客を育てることにつながった。また、下田や掛川等での一般公演の実施は、県民によるマイクロツーリズムを促し、コロナ禍で打撃を受けた地域の観光産業の活性化に貢献した。

教育プログラム、地域活性化プログラムにおいても、オンラインを含め新しい方法を探りながら実施することで、幅広い年代の方々に演劇に触れる機会を提供できた。従来より実施している県内の文化施設や教育施設のみならず、地域住民と協働して古民家やお寺などでの上演やワークショップ等を行うなど、コロナ禍による閉塞感を打破する起爆剤としても地域からのSPACへの期待は高まりを見せている。定番企画である「リーディング・カフェ」はオンライン実施にしたことにより、静岡県外からのニーズに応えることもできた。

これらのことから、本事業は、「世界への窓」「新しい広場」「公共財」としての劇場のあり方を追求し、社会に対して、「いまこそ演劇が必要な人たちがいる」ことを示すことができ、文化的、社会的、経済的意義が継続して認められる。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

本事業では、7つの目標を設定し、自己評価ユニットを用いた定性的な効果測定によってその達成度を測っている。下記【目標の達成状況】と下図【自己評価ユニット判定結果】から、各目標に対する事業の相互補完が働いており、「創造」「文化交流」「教育」「地域活性化」の4つのアウトカムの発現は可能と考えている。しかし、自己評価ユニットによるA評価を獲得できた目標は3つであり、前年度の6つから半減。これは、コロナの影響により、特にトークや観客と俳優・スタッフとの交流プログラム等を実施できなかったことが大きく影響していると考えており、次年度に向けた課題とする。

#### 【目標の達成状況】

##### 1) 舞台芸術に係る人材育成 [1)-1:アーティスト育成 1)-2:スタッフ育成 1)-3 サポーター育成]

主に事業1・2・4・10での創造と上演活動が、俳優・スタッフ等の新たな交流や研鑽の機会となり、アーティスト・スタッフ育成の柱を担った。感染防止対策を取り込んだ作品づくりは、演出や俳優の表現のみならず衣裳等のデザインやスタッフワークにおいても新しい手法を生み出すこととなった。県内ツアー公演は、条件の異なる会場へのスタッフの対応力向上に貢献したほか、事業10・11・12では次年度の新たな開催につながるサポーターの拡がりもみられた。

##### 2) 劇場のアクセシビリティ向上

##### 3) 国際プレゼンスを持った作品の創造と、それを享受できる観客の創造

##### 4) 日本国内の舞台芸術拠点および地域の文化活動拠点とのネットワーク形成

事業1・2において、国内外の演出家とともに創作した質の高いレパートリー作品を県内文化施設12館で上演したことで、前年度比約5,000名増の計15,769名の中高生が鑑賞し、観客の創造に大きく貢献した。また、事業10における市民とSPAC俳優による朗読公演の実施など、県内文化施設との連携をさらに発展させることができた。

##### 5) 日本における、演劇分野での国際ネットワーク拠点となるための活動

事業2では既にSPACとの関係の厚いジャン・ランベール＝ヴィルド(フランス)、ロレンゾ・マラゲラ(スイス)を演出に迎え、事業4ではセリーヌ・シェフェール(フランス)との新たなパートナーシップを築いた。いずれもリモート稽古になったものの、制約の中で創作を共にした俳優・スタッフとは強い信頼関係が生まれ、今後も交流の継続・発展が期待される。なお、事業4の『みつばち共和国』は、令和3年度の再演・県内外でのツアーが決定している。

##### 6) 地域との間の実質的なパートナーシップ構築、地域課題へのアプローチ

##### 7) 舞台芸術を活用したあらゆる年代を対象とする、新たな教育機関としての活動

外国語/日本語字幕での上演を行うことで、ブラジル人学校や日本語学校、聴覚特別支援学校の生徒たちに観劇体験を届けることができた。また、コロナ禍において活動が少なくなっていた高校演劇部にレクチャー動画を提供するなど新たな手法での教育プログラムを行うほか、個人商店等との協働により地域の賑わいづくりにも貢献。さらに、乳幼児や子育て世代に演劇鑑賞の機会を提供するなど、世代や環境を問わず、演劇にアクセスするチャンネルを創出した。

#### 【自己評価ユニット判定結果一覧】 (※Aが最も評価が高く、Dが最も低い。ダッシュ'は、同判定においてダッシュ'無しに劣る)

事業番号・名称	目標1-1	目標1-2	目標1-3	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7
1 レパートリー創造プログラム(1) 国内の優れたアーティストとの作品創造	A'	A'	A	B	B	B	-	B	-
2 レパートリー創造プログラム(2) 国際共同制作①	B	B	A'	B	B	B	B	C	-
3 レパートリー創造プログラム(2) 国際共同制作②	新型コロナウイルス感染拡大により令和3年度へ延期								
4 レパートリー創造プログラム(2) 国際共同制作③	B	B	A	B	B	-	B	C	-
5 国内ネットワーク形成プログラム 国内共同制作	新型コロナウイルス感染拡大により令和3年度へ延期								
6 教育プログラム(1) SPAC-ENFANTS-PLUS	B'	-	-	C	-	-	-	-	B
7 教育プログラム(2) SPAC シアタースクール	-	B	-	B	-	-	-	-	B
8 教育プログラム(3) 中学高校演劇支援事業	-	-	-	-	-	-	-	A	A
9 教育プログラム(4) こども大会	-	-	-	B	-	-	-	-	B
10 地域活性化プログラム(1) 作品派遣型アウトリーチ事業	A	-	A	B	-	-	-	B	A
11 地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業①	-	-	A	C	-	-	-	B	A
12 地域活性化プログラム(2) 人材派遣型アウトリーチ事業②	-	-	A	B	-	-	-	B	A

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、事業3と事業5は中止となった。事業3は海外からの演出家・アーティストによる滞在制作作品で、来日が困難な状況では実施が不可能だった。事業5については、静岡県の文化プログラム事業で、SPACの俳優と100名の市民参加で作品を創り上げる事業だったが令和2年度は中止、1年延期となった。

事業2、および事業4も海外の演出家・振付家との国際共同制作作品であるが、出演者・スタッフは日本の稽古場・劇場において感染予防対策をとりながら、オンラインで稽古・クリエーションを行うことで事業を実施することができた。旅費(渡航費・日当など)の支出が減となった。

なお、事業1、事業2、事業4では出演者にアンダースタディ(代役)をつけ、体調不良者が出ても公演を中止することなく実施する対策を取ったこと、中高生鑑賞事業での鑑賞者用バスの定員を半減したことにより支出が増加した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の懸念から鑑賞事業公演の参加を見合わせた学校もあったことから、支出の乖離幅は120%を下回った。収入については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため客席数を半減したため、入場率は上昇した一方、入場料収入は当初予算を大きく下回った。

事業6、事業7は、稽古場に集まっての作品創造は行わず、オンラインでワークショップを行う内容となったが、参加者は例年の半数以下にとどまった。また指導俳優の数も削減したため支出が大きく下回った。

事業8は参加校が集まっての実施ではなく、教材映像の作成・提供に切り替えたことより支出が増えた。しかし参加のハードルが下がり、例年よりも参加校、参加者が当初目標の3倍となった。

事業10は出張劇場、おはなし劇場ともに感染対策を施した上での作品づくりとなりスタッフ費、舞台費が増加した。当初予定よりは実施回数が減ったが、出張劇場の入場者数は目標を上回るなどコロナ禍においても生の舞台公演を楽しみにする人々の期待に応えることができた。

事業11はいずれも当初予定より実施回数減となったが、オンラインでの実施方法の開拓などにより、広い地域の参加者の獲得につながった。

事業12は、ダンスというジャンルにおいて密や濃厚接触を避けてのメニュー作りに時間がかかったことや、学校側のスケジュールにより、当初15回実施予定が2回に留まった。しかし特別支援学校に通う児童を対象にした児童クラブや自発的な学習を行うオルタナティブスクールで実施することにより、新たな方法論を獲得する好機となった。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

SPACは日本で唯一の「専用の劇場を持った公立劇団」として、パフォーミングアーツ専用設計された静岡芸術劇場と舞台芸術公園を拠点に、人事権と予算執行権を持つ芸術総監督のもとで専属の俳優やスタッフが活動する独自の体制を敷いている。静岡芸術劇場には衣裳・舞台美術の創作のための工房、演劇に特化した音響・照明設備があり、専属スタッフが常駐し創作活動を続けている。さらに制作スタッフ自らが票券システムの管理運用や、多くの広報物についても自らデザイン制作を行っている。

芸術総監督を務める宮城聰の創造活動への評価は国内外で確立されており、平成29年度(第68回)芸術選奨文部科学大臣賞(演劇部門)受賞、平成31年4月にはフランス芸術文化勲章シュヴァリエを受章している。

#### ◇レパートリー創造プログラム[事業1(国内の優れたアーティストとの作品創造)、事業2、4(国際共同制作)]

国内外の新進気鋭の演出家・アーティストとともに世界レベルの作品を創造・上演する。令和2年度は新作1作品とレパートリー(再演)3作品の上演を行った。コロナ禍の中で公演事業を継続するにあたって SPAC では、舞台上でもマスクを着用し、接触を避け、小道具の共有もしないなど、徹底した感染症予防対策を取っている。こうした対策も作品の一部として取り込み、演出や衣裳デザインなどに「活かして」いくことで、コロナ禍の中での新しい表現の形を打ち立てた。

事業1(国内の優れたアーティストとの作品創造)『病は気から』は、ノエ征爾の潤色・演出による再演。感染症対策を巧みに台本・演出に取り込んだ新たなコロナ・バージョンでは、これまでの上演にもまして17世紀の名作が現代の我々の「いま」につながるものとなり、再創作の大きな効果を見せた。宮城聰演出『ハムレット』では全役でアンダースタディー(代役)を兼ねるダブルキャストとし、再演を重ねたオリジナル版と、衣裳や演出を新たにしたりした版との2バージョンをもって県内ツアーを実施した。

事業2(国際共同制作)『妖怪の国と太郎』は、SPAC 俳優の層の厚さを生かしたダブルキャストでの再演により約3ヶ月の巡回公演を実施。フランス在住の演出家とは、制約の多いオンラインでの稽古となったが、新たな出演者の目線や発想がオリジナルキャストの演技にも変化をもたらした。

事業4『みつばち共和国』は、やはり演出家等の来日が不可能な中で、国際共同制作の新作の創作をオンラインでの稽古で実現した。自然と人間との関係性を問かける本作は、自然と舞台芸術が共存する舞台芸術公園のオリジナリティを体現するレパートリー作品となった。

これらのレパートリー創造プログラムでは、英語字幕、静岡県西部に多いブラジルの方々に向けたポルトガル語字幕、聴覚障がい者等に向けた日本語字幕表示を導入し、多言語対応・バリアフリー化に取り組んでいる。

#### ◇教育プログラム[事業6、7、8、9]

#### ◇地域活性化プログラム[事業10、11、12]

各企画の講師、コーディネーターを SPAC 専属俳優・スタッフが務めることで、地域課題やニーズに沿った柔軟なプログラムを提案・展開している。令和2年度は様々な企画の実施が困難となったものの、内容に応じてオンラインでの開催や映像・DVD の提供など代替となる形式を取り入れた。一方、レパートリー創造プログラムと同様に感染症対策を徹底した上で作品派遣やワークショップも実施。事業10の作品派遣型アウトリーチ事業では、子育てしやすい地域づくりの一端を担う「SPAC おはなし劇場」や、コロナ禍で影響を受ける個人商店等の応援イベントへの出演、地元の太鼓保存会や市民との作品創作などを実施しており、SPAC の人材の厚さを活かしてまちづくりや地域振興に貢献している。



## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

令和2年度は、対象事業に関する個別の記事・特集としては国内全国紙・地方紙で19件、テレビ2件で取り上げられた。感染症対策を活かした形での創作・上演が話題となったほか、県内ツアー公演やアウトリーチ事業で訪問した市町での取材も多く、創造・教育・地域活性化の各プログラムが偏りなく紹介された。創造プログラムの演目紹介としてはこれまで取材につながりにくかったテレビでの報道が複数件あったことも、事業への注目の高まりを示している。なお対象事業個別ではなくSPACの活動に広く触れるものとしても別途、新聞記事計57件、テレビ5件、雑誌・フリーペーパー3件、オンラインメディア30件で取り上げられており、本事業を中心とするSPACの活動全般に大きく関心が寄せられているといえる。

レパートリー創造プログラムのうち、事業2(国際共同制作)『妖怪の国の与太郎』は、英語・ポルトガル語・日本語の3カ国語字幕付きで静岡公演を実施したが、県内のブラジル人学校の生徒や県内留学生など複数来場し、普段劇場に来る機会の少ない層からも好評を得た。また、掛川公演では、連携を予定していた掛川市による芸術祭「かけがわ茶エンナーレ」が新型コロナウイルスの影響により中止になったものの、引き続き主に広報面で掛川市役所の協力を得ることができたほか、中高生鑑賞事業公演については地元紙からの取材を受け、地域住民の来場やSPACの事業への理解を促した。

また、『みつばち共和国』は、令和3年度には劇場のサイズを大きくして再創作・再演や静岡県内でのツアー公演を行うことに加えて、鳥取県「鳥の劇場」から招聘を受けて県外での公演も実施することとなった。令和2年度に初演した本作の成果を静岡県の内外でアピールしていく。

オンライン実施や映像等にも形を広げた教育プログラムや地域活性化プログラムでは、事業8内「SPAC1日演劇学校」を動画提供の形にすることでコロナ禍における演劇部のニーズに応えることができ、参加者数が例年より大幅に増加することとなった。また、事業11内「リーディング・カフェ」は13年間継続してきた本企画で初の試みとして全てオンラインでの開催に切り替えたことによって、これまで県内での実施を主としてきた本企画に在住地域を問わず全国から参加者が集まり、SPACの取り組みへの理解や評価を広めることができた。

また、事業10では三島市の主催により14会場での「おはなし劇場」を実施。個々の文化施設等との連携を充実させていく一方で、こうして県内市町の自治体がSPACの取り組みを活用して行う形でも事業の広がりがみられている。

創造・教育・地域活性化それぞれの事業を広く柔軟に展開するSPACの人材への派遣依頼は、県内各大学での講師、県内高校演劇部の大会や戯曲コンクールの審査員、静岡県総合教育課主催の教員初任者研修の講師など多岐にわたる。静岡県教育委員会との連携・協力関係が年々強化されていることは、教育プログラムをはじめとする他の事業の円滑な実施にもつながっている。

なお、令和3年度には静岡県が推進する「演劇の都」構想の一環として高校生を対象に実施する「SPAC演劇アカデミー」を開講(対象外事業)。各対象事業のこれまでの実績・成果への高い評価が大きく寄与して生まれたこの新しい事業により、優れた演劇人を育成する教育機関としての劇場の活動をさらに展開していくことになる。

令和2年度は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、各事業を国外に向けてアピールし具体的な評価や今後の展開につなげることは困難であったと言わざるを得ない。これまで築いてきたネットワークはもちろん、コロナ禍の中で身近になったリモートでのコミュニケーションも活用しながら、今後も国外から評価を得ていけるよう努めたい。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

#### 【人事面】

●組織体制(令和3年3月31日現在)

芸術総監督:宮城聡 芸術局長:成島洋子

芸術局 制作部 20名 創作・技術部 34名 演技部(俳優)35名 文芸部 3名

事務局 事務局長 1名 総務課長 1名 総務係長 1名 経理係長 1名 管理係長 1名 臨時職員 4名

●SPAC は、設立当初から専属の俳優とスタッフを擁する劇場として、劇団としての機能をも併せ持つ。専属契約の更新回数には上限を設けず、所属俳優およびスタッフのうち半数以上が 10 年以上継続して契約し、劇場運営および各事業の中核を担う一方、毎年、新規スタッフの採用も行っており(経験者・新卒ともに採用)、次代を担う専門人材の育成にも積極的に取り組んでいる。事務局は県からの派遣職員がその業務を担い、芸術局と同じ劇場で一緒に仕事を行い、県との良好な関係を続けていくための重要なパイプとなっている。

●SPAC レポートリー作品のクリエイションおよび公演、演劇祭の開催、海外公演、他館や海外の劇場・アーティストとの共同制作、こうしたそれぞれの場で OJT を日々重ねることのできる環境、国内外のプロフェッショナルと一緒に現場で仕事をする経験が、長年に渡り我々の人材育成の基盤となっている。令和 2 年度は映像の配信技術が新たに求められる場面が多く、創作・技術部内で研修を行い、新たな技術の獲得が図られた。そのほか、外部講師をまねいたハラメント研修も定期的に行っている。

●SPAC 人材育成事業参加者の声から生まれたボランティアスタッフ組織「SPAC シアタークルー」の活動は 10 年目を迎え現在約 60 名のスタッフが各事業で活躍している。

#### 【財務面】

●財源の半分を占める静岡県一般財源補助金は、平成 29 年度に一時減額されたが、平成 30 年度以降持ち直した。令和 2 年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、20 年来毎年開催している国際演劇祭の開催が中止となり、また、予定されていた海外公演も中止となったことから事業収益は減少したが、公演事業に変わる新たな事業(オンライン事業、映像配信)などの受取補助金・委託金を獲得したほか、静岡県の新規事業(SPAC 演劇アカデミー)の受託を受けるなど、財源の多様化を図った。

#### 【改善・機能強化】

●事業計画、事業実施状況、人事体制等については、芸術総監督と制作部および創作・技術部各セクションのチーフの月例ミーティングにより、定期的にモニタリングを行っている。経営状況については、設置者である静岡県の職員を交えたミーティングを定期的に行うことで調整・改善を図っている。そのほか毎月芸術局全体でのミーティングを行っているが、令和 2 年度は ZOOM 会議が導入されたことで、遠方の俳優、スタッフの参加が容易になり、組織内のミッション・ビジョンの共有が強化された。さらに観光・教育・福祉など、文化芸術以外の分野で SPAC に何ができるのかを研究・開発していくための「戦略室」を新設した。

●令和 2 年度より静岡県の「演劇の都」構想事業がスタート、芸術総監督宮城聡が構想策定委員として参加している。「演劇の都」事業では静岡県内の演劇活動状況の調査や広報事業、SPAC の活動拠点である舞台芸術公園の利活用について議論が進んでいる。

#### 【ネットワーク等】

●令和 2 年度は劇場が改修工事中のため、静岡県内各地の劇場での出張公演を行い、なかでも中高生芸術鑑賞事業公演では、県内のべ 18 会場で 68 公演が行われた。

●「SPAC 演劇アカデミー」は、県立高校への演劇コース設置を目標に令和 2 年度に準備事業を実施、令和 3 年度より本格始動した。本事業は SPAC に所属する俳優のキャリアパスとしても有効である。

●コロナ禍において、文化庁や経済産業省、静岡県などが設けた各種補助事業の情報を積極的に SPAC の俳優・スタッフに伝え、申請ガイダンスもオンラインで行った。補助事業により多彩な事業が立ち上がり、俳優個々人の能力向上や地域でのネットワーク強化につながった。